

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501636
法人名	新居浜医療生活協同組合
事業所名	グループホームあおぞら
所在地	愛媛県新居浜市南小松町8-68
自己評価作成日	平成21年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、四季を通じて美しい景色に恵まれた環境の中、それぞれの利用者がその人らしく趣味を楽しんだり馴染のものを大切にしています。また、利用者同士が仲良く助け合って日々暮らしています。又、家族・地域住民・職員が連携を密にする事で地域の方々に助けて頂いたり、行事に参加して下さったり、毎日のようにボランティアの人も尋ねてくださり、利用者と楽しい一時を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●利用者のご家族が全員市内に在住されていることをきっかけに、H21年に家族会を立ち上げられた。敬老会や餅つき時にご家族とともに活動をされている。次回3月には、ご家族と職員の懇親会等を行う予定となっていた。運営推進会議時に、理学療法士のご家族の協力を得て「転ばぬ先の杖」と題して転倒予防についてお話しいただく予定となっており、地域の方も誘いする計画を立てておられた。
●トイレは、7ヶ所設置されており、それぞれの居室から近い位置にある。昼間は布パンツを使用し、トイレで排泄できるよう支援に努めておられる。在宅復帰に向けて支援されている方は、ご本人に尿意があることやトイレでの排泄の大切さを伝え、ご自宅でもトイレで排泄ができるように排泄介助のアドバイス等されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあおぞら

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

前谷 満里子

評価完了日

平成21年12月20日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			職員は、常に理念を基に利用者を支援出来るよう、入職時から理念を説明している。日々理念を意識出来るよう目につきやすい場所に理念を掲示している。	
			(外部評価)	
			理念に「利用者の尊厳ある暮らしの支援」「地域に開かれたグループホームの運営に取組む」ことを盛り込み、取り組まれている。ケアについての月目標も決められており、今月は「利用者への言葉かけを2倍にふやす」と挙げ、共用空間に掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域の自治会員として活動している。ホームの行事に地域の方と一緒に交流出来る機会を作っている。	
			(外部評価)	
			新居浜市の交響楽団のグループの方の演奏会を事業所で行い、地域の方に案内された。ポスティングしてお知らせして、大人から子供まで多くの方に参加していただいた。9月に行った事業所主催の敬老会時には、事業所の駐車場でも炊きをされ、ご近所の方にも届けられた。地域の運動会に見学に行かれた利用者もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議を利用し、認知症や支援の方法を話し合っている又地域の方からも介護について、直接介護の相談を受ける機会がある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況、ケア、感染対策、避難訓練、地域活動 を議題に話し合うことで、評価や課題が得られ運営に 生かしている。テーマについては、希望や優先順位を 決め運営の向上に役立てている。	
			(外部評価) 開設以来利用しているご近所の散髪屋さんや、大家さ んにも参加をいただき会議を開催されており、事業所 から活動報告をされ、ご意見をうかがっておられる。 9月には、会議と家族交流会・敬老会を合わせて行 い、会議メンバーとともに全ご家族も芋炊きで交流さ れた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市町村から運営や感染に対する情報が随時届けられ る。1回/月待機情報を市へ発進し、ホームの状況を報 告。ケアや運営に関する相談が出来、丁寧に指導して もらえる。環境保全課から光化学スモッグ情報が得ら れる。消防署の立入検査等安全対策が確立。	
			(外部評価) 月に1度、介護相談員の訪問があり、その他にも、運 営推進会議や行事時に参加いただいている。市の担当 者は、介護計画の書き方について一緒に考えてくだ さっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関の鍵をかけない。身体拘束0に日頃から スタッフ一丸で取り組んでいる。外来者にも分かるよ う身体拘束0のポスターを掲示している。	
			(外部評価) ご自宅で使用されていたベッドを持ち込まれている方が取り付 けておられた柵について、ご家族の要望もうかがいながら、入 居後のご本人の様子を見て、必要性について職員やご家族と話 し合い、現在は、使用せずに職員の支援で対応されている。 「待つて」等の言葉は、その都度、職員間で注意し合っておら れる。玄関は1階であるが、生活スペースや居室は2階にあ り、階段には、車椅子利用の方等の転落防止のため、フェンス を設置されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待0を徹底している。職員とカンファレンスや申し送りで資料や各自の思いをテーマに話し合っている。 (人の痛みを共感出来る資質を身につける場)	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度は、全員が知っているが、活用の経験がない。研修会等で学ぶ機会をもつ必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約は、利用者・家族同席のもとに行っている。1項づつ管理者が読み上げ理解が得られたか確認している。解約や改定の項も、一方的なものでなく、理解出来る様説明や話し合う場があることを知っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族、介護相談員、ボランティアの方々から意見を聞けるよう、ホーム内で職員や家族同志、介護相談員、ボランティアの交流会を持ち、反省会等で意見を聞き得られた情報を運営や職員の力の発揮の場としている。 (外部評価) 利用者のご家族が全員市内に在住されていることをきっかけに、H21年に家族会を立ち上げられた。敬老会や餅つき時にご家族もともに活動をされている。次回3月には、ご家族と職員の懇親会等を行う予定となっていた。日々の利用者の様子は、ご家族の来訪時に報告されており「経過記録」を見ながらお話しすることもある。運営推進会議時に、理学療法士のご家族の協力を得て「転ばぬ先の杖」と題して転倒予防についてお話しいただく予定となっており、地域の方も誘いする計画を立てておられた。	 ご家族の来訪は頻繁にあるようで、来訪時には利用者の様子を報告されているが、ご家族の知りたいことを情報提供していくような取り組みも期待される。たとえば、外出や食事支援のこと等、ご家族が知りたいこと等も探り、伝えていかれてほしい。又、運営推進会議の取り組み等についてもご家族に知らせ、より具体的なお意見をうかがってみてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			1 / 月、運営会議を開催し、代表者や他施設から見識のある職員を招き職員の意見や運営に関する提言や情報を交換し、運営の円滑化に役立てている。	
			(外部評価)	
			職員は、申し送りや月1回の職員が集まる「運営会議」で意見や提案を出し、管理者と話し合っておられる。トイレの手すりの位置のことや「午前中に体操の時間を作ってはどうか」という職員の提案があり、NHKのテレビ体操を行うようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			1 / 月、代表理事を混え、就業環境の整備や運営。労働環境の改善に取り組んでいる。管理者は、職員と双方で勤務評定をし、それを基に代表者と話し合い各自が処遇や労力に対する思いを話す場がある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			代表者は、職員の質の向上に対して協力的で研修会や施設関連グループと合同で研修する機会がある。施設内で熟練された職員をリーダーとして教育や相談が出来るスタッフを配置している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム相互評価や地区研修会へ参加し、同業者と交流を図る、又本年は、コンサートを開催し、他グループホームの職員さんの参加して頂く機会が得られた。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前より情報を収集し、ホーム見学時には、利用者家族のニーズに合った説明を心がけている。利用者との大切な出会いの場であり、利用者の思いを傾聴するよう心がけている。施設、職員、利用者で出会える場を作り雰囲気理解出来るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事業所の見学には出来る限り利用者、家族と一緒に来て頂いている。契約時にも入居に関して理解出来る言葉で説明し、不安にならないよう努力している。やむをえず病院から直接入居される場合は、事前に訪問させて頂き相手を知る機会を作っている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の気持ちを大切に考え、生活の全てを変えることのないよう、家族やなじみの人と交流を保ちホームに馴染んでもらう工夫をした。(例) 利用していた通所リハビリに3/週程度出かける。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者のお話を聞き、望む生活、趣味、出来る事を知り、日々の生活から利用者が生き生き暮らせる、又作品作りは、共同で完成したり、利用者同志思いやりが持てる場を作る工夫をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者と家族の関係が絶えないよう衣替え、墓参り、外出へ働きかけている。正月や祭り等、家族の忙しい時は、外泊は、家族の要望がない限り働きかけない等家族へ精神的な負担をかけないようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族、親戚、知人の方々が利用者には、大切なお客様、ホームでくつろいで過ごして頂ける様、挨拶やお茶の接待や必要時、職員も一緒にお話に加わっている。 (外部評価) 管理者は、来訪されたご家族が帰られる際に「寒いから気をつけて」と声をかけておられた。年に3～4回一人暮らしをしていた家に家族と泊まる方や、お正月にはご家族と過ごされる方、お孫さんの結婚式、ご主人の法事に参加される方もおられる。お墓参りのご希望があった際には、職員がご本人の希望をご家族に伝え、ご家族と出かけられるように支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中の余暇時間を共有室でみんなで過ごし、レクリエーションや洗濯たたみなどを職員とともにとりくんでいる。利用者同士で言語表現の不安や意志の疎通が難しくトラブルになりやすい時は、職員が仲介役をはたし、お互いに理解して頂き個々の能力に応じた取り組みをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入所中の生活の様子・行動の特徴・くせ、こだわり・嗜好が詳しく情報提供出来る様日々の記録や状態把握を行う。退所後も何時でも相談に応じたり、来所して頂ける様声かけをしている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族にも意見を伺ったり、個々の生活史を大切にし、日中の何気ない会話の中で、利用者の希望・思いを組み取り、利用者本位の生活が送れるよう取り組んでいる。 (外部評価) センター方式の書式を用いてアセスメントをされていたが、さらに職員に分かりやすいような様式を検討されており、現在は、市のグループホーム協議会時に教えていただいたアセスメントシートを用いておられた。「利用者の全体像を理解する」「生活像 出来ること、出来ないこと」「生活像 分かること、分からないこと」について利用者個々の現状の把握に努めておられる。利用者との日常の会話の中から思いを汲み取るよう努めておられるが、職員の汲み取る思いと利用者、ご家族の思いに違いがあるのではないかと感じておられた。	さらに事業所で「その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント」に取り組まれるためにも、ご本人主体の生活支援につなげられるよう、必要なアセスメントを充実させていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者・家族、入居前のケアマネージャー等の情報を参考になっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活リズム、心身の機能、変化にどう対応し、問題解決していくかなど把握するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンス及び日々の申し送り等で、話し合っており、より良い計画作成が出来るように職員が協力している。	
			(外部評価) ご家族の意見を聞いて職員で話し合い、利用者個々の担当者が計画を立てておられる。立案した計画は、組合内の系列介護サービス事業所に所属する主任介護支援専門員にチェックしてもらうようになっている。現在は3か月ごとに介護計画の見直しをされているが、「残存能力や精神面について大きな変化がない」とのこと、今後は6か月ごとの見直しを検討されていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は、詳細に記入しており、実践につながるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の要望に応えられるように利用者の生活リズムや家族との習慣が続けられるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアさんもこられ、利用者との関係も作られている。運営推進会議には、地域の方及び民生委員等の参加をお願いしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			利用者と主治医の関係が継続出来るよう受診の支援をしている。服薬や症状について変化や副作用について情報提供し、指示を仰いだり、受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(外部評価)	
			法人の医療機関が主治医の方は、2週間に1度往診がある。歯科は、訪問歯科を利用し、1人の利用者が齶口瘡（口腔カンジダ症）で診てもらったことをきっかけに、歯科医に唾液腺マッサージの方法やうがいについて教えていただき、他の利用者の口腔ケアにも採り入れておられる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時、情報提供や受け持ち看護師と連携を取り、利用者の不安軽減に協力する。利用者へ定期的に面会し、関係を保っている。退院時指導を受けたり、必要時、栄養指導を受けたり、家族を交えカンファレンスをもっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			終末期、看取りの経験がなく、今後の課題である。看取りに協力してくれる医師を現状では、得られず、主治医と話し合う必要を感じている。	
			(外部評価)	
			入居時、ご家族には終末期の支援や最期までホームで暮らせることを説明されているが、現在は、事業所での看取りの希望はないようである。利用者がいざという時には、管理者が駆けつけるようになっている。	今後、ご本人やご家族からの重度化や終末期支援の希望があった場合の対応等について、事業所の体制作りにも取り組まれてほしい。職員で勉強会を行ったり、ご家族の不安や心配ごと等がないか聞いてみるような機会も作ってはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルにそって、緊急時対応・応急手当が出来る。急変時等の家族と話し合い搬送先の希望を決めている。夜間の利用者の対応に看護師と事務員が出勤し、他利用者のケアに支障がない態勢をとっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練の実施。2回/年うち1回は、消防署職員を招き訓練をしている。防災設備の定期点検の実施、スプリンクラー設置。運営推進会議や地域の方を招いた行事の折、災害時の救助の支援を依頼している。 (外部評価) 消防署の協力や防災設備会社の方も参加して、避難訓練を実施されている。消防署の方からは訓練の様子を見て「真剣に取り組まれている」と感想をいただいた。大家さんを通じて、いざという時には、隣接のアパートの方や、近所に住んでいる方々にも協力してもらえるようになっていく。	今後は、夜間を想定した訓練や地域の方も参加しての訓練等にも取り組まれてほしい。職員が不安に思われていることやご家族等のご意見も聞きながら、利用者や職員等の安全と安心のための取り組みを重ねていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自分の好きな場所で自由に時間を過ごすことが出来る。利用者が自分の好きなことを選んでしている。排泄時、入浴時のケアは、1人々が個別に支援している。 (外部評価) 理念に「自分にされて嫌なことは、人にもしません。」と掲げておられる。食事を手で食べる方がおられたが、管理者は「人それぞれ文化が違うように習慣も違い、汚いと思うのではなく、手を清潔にして『汚くさせないケア』を心がけている」と話されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 飲み物は、利用者の好みを聞き、温度や砂糖も好みに合わせています。ホームからの季節の外出も個人が自由に決められます。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 予め、その日の予定（受診・行事。外出等）を伝え確認している。又、希望を伝えてもらえる様機会をみつけ声かけしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容に関しては、定期的になじみの美容師さんが来られ、好みの髪型にして頂いています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食卓を拭いてもらったり、食器を並べてもらったり等、各自の出来る範囲で手伝いをお願いし、献立の話しながら食事を楽しみにしてもらっている。 (外部評価) 栄養士免許を有する職員が栄養のバランスやカロリー等も考え、冷凍食品を使わず旬のものを使用して、食事作り担当の職員が調理をされている。利用者は、野菜の下ごしらえやテーブル拭き等をお手伝いされることもある。食欲のない方には、ご家族と相談し、ご飯がすすむように、ご本人のお好きな梅干やきなこを持って来ていただくこともある。	調査訪問時、昼食後に食器を片づけようとされた方に、職員が替わって行っておられる様子が見られた。利用者主体の生活を支援するためにも、ご本人のできること、できそうなことの把握に努められ、利用者個々の本来の習慣等も探り、食事を楽しむことができるような支援につなげていかれてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事摂取量等を各自の生活記録に記入し、状況に応じ、栄養補助食品等を取り入れる等の工夫をし、健康に気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 各自の能力に応じた支援を行っている歯科往診をお願いし、スタッフも口腔ケアの方法等を指導してもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握し、事前に声掛け等を行い、負担のないトイレ誘導を心がけています。夜間は、紙パンツやポータブルトイレを使用する事により安眠を防げないような工夫をしている。	
			(外部評価) トイレは、7ヶ所設置されており、それぞれの居室から近い位置にある。昼間は布パンツを使用し、トイレで排泄できるよう支援に努めておられる。在宅復帰に向けて支援されている方は、ご本人に尿意があることやトイレでの排泄の大切さを伝え、ご自宅でもトイレで排泄ができるように排泄介助のアドバイス等をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 献立の工夫をしたり、乳製品を採り入れたり、体操等を行ったりして、自然排便につながる様工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 各自の受診等の日程に合わせ、二つのグループに分け、週3回は、入浴出来る様にしている。順番待ち等、不快な思いをしない様、声掛けし、丁寧に説明している。	
			(外部評価) 利用者から入浴時間についてご希望はなく、現在は、午前中に入浴するようになっている。湯舟の汚れがわからなくなるために入浴剤は使用しないようである。保湿性の高いボディソープを使用し、乾燥しないように心がけておられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各自の生活リズムやその日の体調に合わせた休息を支援している。天気の良い日は、布団を干したり、季節に合わせた寝具を用意する等、安眠につながる様工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をよく読み、副作用や注意しなければならない症状など、申し送りノートや管理日誌に記載し、絶えず確認する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物をたたみ、出来る方には、それを自室に持って帰って片付けていただく。NHKのテレビ体操に参加してもらっています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日や暖かい日は、車の少ない土手などを散歩している。ご家族が受診に同行されている場合、その後、一緒に外食をしている方もおられる。 (外部評価) ご家族と外出される方が多く、お墓参りや外泊等もされている。気候のよい時期には、職員と一緒に近くの公園や河川敷に散歩に出かけられる。初詣は、希望者を募り、利用者個々の氏神さまをお参りに出かけられた。	職員は「利用者全員で回転寿司や喫茶店に出かけてみたい」と話されているが、現在、グループホームでは車が1台で、希望に沿った外出に制限があるようだ。利用者個別に、行ってみたい場所を職員と一緒に訪ねるような外出もされてみてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は、金銭の自己管理をされている方はおりません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望で自由に使用出来る。ご家族の方から手紙や写真を持って来てくださる。お孫さんから、エアメールが届くこともあります。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			建物内を定期的に点検し、危険な個所はないか、あればすぐに修理する。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			居間に、色画用紙で職員が作った門松が貼られてあった。調査訪問時、午後から、ボランティアの方に見守られて、ぬり絵をされる利用者があった。居室の入り口には、下駄箱と収納式の椅子が設置されており、座って履物の履き替えができるようになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			家族の方と話し合っ、日常使われていたものを側に置いて、本人が安心出来て、ゆっくり休める様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			冷蔵庫に梅干や飲み物等を入れておられる方もあった。ご家族との写真や、以前通われていたデイサービスでのお誕生祝いの色紙を大切に飾られている方もあった。	
55			(自己評価)	
			利用者の目標にあわせ、声掛けしたりさりげなく誘導している。	